がまんの話

　日本人は一般に我慢強い人が多いです。というか、我慢するのが美徳、あるいは弱みを口にするのはかっこ悪い、という文化で育ってきました。また、医者に気兼ねして、自分が本当に困っていることを相談しにくい方も多いです。言葉にしなくたって、辛そうにしている姿から何かを察してくれて悪いようにはしないだろう、という期待や甘えもあるでしょう。あえて断言しますと、医者は言わなければ気が付きません。我慢していればきっといいことがある、という切ない思いはときに裏目に出ます。患者さんが「大丈夫です」と強がれば、「そう、まだがんばれるのね」と思われるだけです。むしろ弱音を吐いて相談してくれればやりようはあるのに、我慢しすぎたせいで元気な時間を浪費することだってあるのです。

　私は、患者さんが医療の場で消費者としての権利を一方的に主張することには全く賛成していません。弱者と強者みたいな設定には価値がないからです。患者さんと医療者が、お互い率直に事情を打ち明けられる関係がもう一段進むためにはどうしたら良いかというのが、私たちの重要なテーマなのです。